

深川駅周辺複合施設整備

基本計画



2022年（令和4年）11月

北海道深川市

目 次

第1章 基本計画策定の目的	
1. 基本計画の目的	1
第2章 現状及び課題の整理	
1. 中央公民館	2
2. バスターミナル	4
第3章 検討経過等	
1. 基本計画検討開始前の経過	5
(1) 社会教育委員会議への諮問・答申	5
(2) 中央公民館利用サークルとの意見交換会	7
(3) 各種アンケート調査等	8
2. 基本計画検討開始後の経過	9
(1) 学生ワークショップ	9
(2) 中央公民館利用サークルの意見を聴く会	10
(3) 公共交通に関する利用動向調査	11
(4) 深川駅利用学生アンケート調査	12
第4章 関連する計画	
1. 関連計画との整合性	13
2. 関連する計画	14
第5章 整備の方向性	
1. 施設整備に関する財政措置	18
2. 整備の必要性	18
3. 整備の方法	19
4. 計画区域と建設位置	20
第6章 基本方針	
1. 基本理念	23
2. 基本コンセプト	23
3. 基本方針	24
第7章 整備計画	
1. 導入する機能	25
2. 導入機能の具体的内容	26
(1) 生涯学習機能	26
(2) 交流機能	29
(3) 交通機能	31
(4) その他の整備内容	32
3. 整備イメージ	34
4. 配置計画	35
5. 施設の規模	37
第8章 事業計画	
1. 整備手法	39
2. 概算事業費及び財源	40
3. 整備スケジュール	42

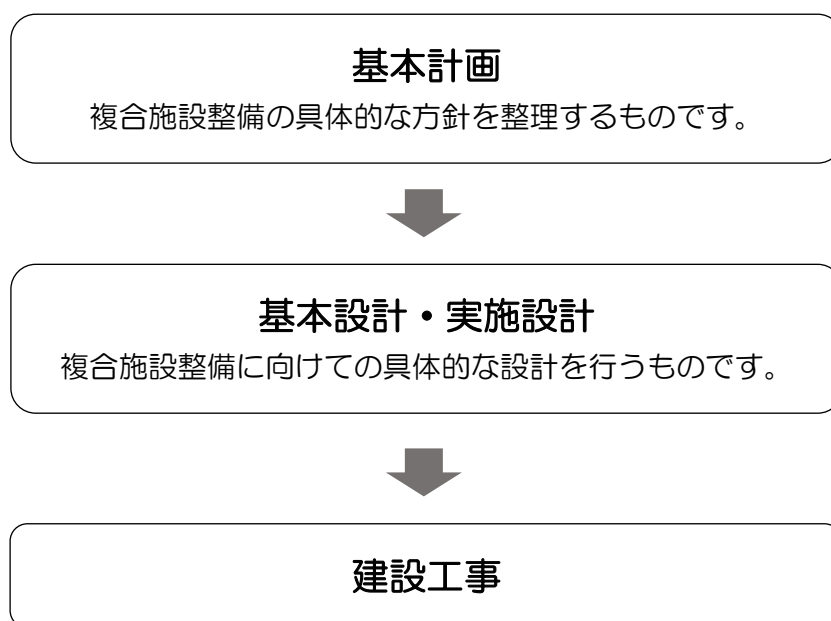
第1章 基本計画策定の目的

1. 基本計画の目的

本市では「深川市立地適正化計画」などで掲げるまちづくりの方針に基づき、深川駅周辺のまちなかの活性化や市民生活の向上を図り、良好な市街地環境となるよう、まちなかに生涯学習や公共交通等の拠点施設の整備を目指しています。

整備する施設は、建設から45年以上が経過した「中央公民館」と平成19年度に廃止された「バスターミナル」で、両施設の機能を中心とした複合施設の整備に向けて、「深川市複合施設整備検討委員会」や「深川市議会複合施設整備特別委員会」をはじめ、各関係機関・団体など多くの市民からご意見を伺い、具体的な検討を進めました。

本計画では、複合施設整備の基本理念や基本方針のほか、施設に備える機能、位置、規模などを具体的に示すとともに、今後、基本設計や実施設計を行う際の基礎的な内容を示すものとして策定いたします。



第2章 現状及び課題の整理

1. 中央公民館

中央公民館は、昭和50年に建設されて以来、本市の生涯学習・社会教育活動の拠点施設の一つとして重要な役割を担ってきましたが、建設から45年以上が経過し、施設・設備の機能低下により十分な環境のもとで公民館活動を行うことが難しい状況になっています。

また、昭和56年以前の旧耐震基準で建設されていることから、現行の耐震基準を満たしておらず、深川市耐震改修促進計画において、耐震化が必要な市有建築物として位置付けられています。

さらに、エレベーターが無く、バリアフリーの基準を満たしていないなど、現在の中央公民館は様々な課題を抱えている状況にあります。

○中央公民館概要

構造・階数	延床面積	開設年月日	経過年数
鉄筋コンクリート造 地上3階、塔屋1階	1,971.55 m ²	S50.9.30	47年

○中央公民館利用状況

平成29年度	平成30年度	平成31年度 令和元年度	令和2年度	令和3年度
42,095人	39,971人	37,262人 (19日休館)	19,457人 (34日休館)	16,281人 (116日休館)

※休館は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止によるもの。

○中央公民館登録サークル数

平成30年度	平成31年度 令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
80サークル 828人	74サークル 832人	70サークル 774人	69サークル 718人	68サークル 747人



○中央公民館の主な部屋構成及び使用状況等

階	室名	面積 (㎡)	使用状況	稼働率 (%)				
				年度	午前	午後	夜間	平均
1階	中会議室	134.56	詩吟、日舞、エアロビ、フォークダンス、書道、カラオケ、吹奏楽等のサークル活動、30～50人程度の会議など	H30	37.9	70.5	41.8	50.0
				R3	41.4	58.3	26.1	40.4
	和室1号	67.28	手芸、民謡、カラオケ、老人クラブ例会、子育て交流、生け花等のサークル活動、演劇の練習、障がい者団体、町内会新年会 など	H30	38.7	36.2	30.9	35.3
				R3	20.5	23.7	27.3	23.8
	相談室	31.90	手芸、生け花、ミニ琴、絵手紙、俳句、短歌、川柳等のサークル活動、行政相談、小会議 など	H30	49.6	44.6	27.0	40.4
				R3	30.9	43.8	24.1	32.9
	実験工作室B	55.10	陶芸、ステンドグラス等のサークル活動	H30	10.0	32.0	19.2	20.4
				R3	10.4	26.1	6.0	14.2
	陶芸実習室 (窯付)	31.39	陶芸等のサークル活動	H30	18.4	13.1	9.5	13.6
				R3	8.0	6.8	2.0	5.6
2階	講堂 (ステージ)	321.31 (ステージ 60.42)	吹奏楽、社交ダンス、太極拳、リズムダンス、健康体操、吟剣詩舞等のサークル活動及び発表会、100人程度の講演・研修会 など	H30	48.5	42.3	47.6	46.1
				R3	42.2	43.0	27.7	37.6
	第1研修室	55.10	絵手紙、手芸、書道等のサークル活動、30人程度の会議	H30	16.4	28.4	15.6	20.1
				R3	6.0	25.3	15.7	15.7
	第2研修室	55.10	絵手紙、手芸、書道等のサークル活動、30人程度の会議	H30	18.7	39.8	19.2	25.9
				R3	18.1	24.9	8.8	17.3
	会議室	33.64	手芸、絵手紙、絵画、読書会等のサークル活動、小会議 など	H30	18.9	24.8	11.7	18.5
				R3	11.2	17.7	0.0	9.6
	実験工作室A	32.00	陶芸、七宝焼き等のサークル活動	H30	29.2	23.4	0.3	17.6
				R3	20.9	18.5	0.0	13.1
3階	料理実習室	67.28	料理のサークル活動、料理講習会 など	H30	12.8	12.3	0.0	8.4
				R3	3.6	4.4	0.0	2.7
	幼児室	33.64	託児 など	H30	1.9	1.7	0.0	1.2
				R3	0.8	1.6	0.0	0.8
	第3研修室	59.16	フラダンス、体操、ヨガ、舞踊等のサークル活動	H30	58.8	41.5	30.9	43.7
				R3	43.0	15.3	8.0	22.1
	和室2・3号	59.16	舞踊等のサークル活動、講堂イベントの控室 など	H30	2.8	12.5	0.6	5.3
				R3	0.0	6.8	0.4	2.4
	視聴覚室	55.10	吹奏楽、大正琴、詩吟、カラオケ、コーラス等のサークル活動	H30	16.2	38.7	25.9	26.9
				R3	2.0	26.1	0.0	9.4
団体事務室	33.64	大正琴等のサークル活動	H30	1.4	12.5	0.8	4.9	
			R3	0.0	11.6	0.0	3.9	

2. バスターミナル

深川市内では「空知中央バス」「北海道中央バス」「ジェイ・アール北海道バス」「道北バス」「沿岸バス」の計5社の路線バス等が運行しています。

バスターミナルについては、バス事業者が中心市街地で運営していた施設が平成19年度に廃止され、以降は新たなバスターミナルは整備されていません。

バスターミナル廃止後、バス事業者により市立病院前にバス待合所が設置され、市内を走る路線バスの多くは市立病院前が発着となりましたが、広域交通拠点であるJR深川駅周辺では限られた路線の運行に留まっています。

こうしたことから、JRからの乗り継ぎやバスターミナルの整備等を望む意見が多くあり、長年の懸案事項となっています。

○深川市内路線バス運行状況（令和4年4月現在）

事業者名	路線名	1日あたり便数（平日）	
		往路	復路
空知中央バス	深滝線、滝深線、北竜線、沼田線、深旭線、循環線、多度志線、西北星線（冬季のみ）	46	47
ジェイ・アール北海道バス	深名線	7	7
道北バス・沿岸バス （共同運行）	留萌旭川線	8	8
北海道中央バス	高速るもい号	3	4
合計		64	66

※便数には冬期のみ運行の空知中央バス西北星線分を含みます。



第3章 検討経過等

1. 基本計画検討開始前の経過（令和4年3月まで）

（1）社会教育委員会議への諮問・答申

深川市教育委員会では、平成27年度に深川市社会教育委員会議に対して「深川市中央公民館のこれからの在り方について」諮問し、社会教育委員会議では先進地視察や利用サークルに対するアンケートを行うなど2年間にわたり調査研究を重ね、平成29年度に同会議から答申として「新しい深川市中央公民館のあり方についての意見書」を提出いただいています。

意見書の概要は次のとおりです。

○新しい深川市中央公民館のあり方についての意見書の概要（抜粋）

<中央公民館の現状と課題>

（1）施設の老朽化

中央公民館は昭和50年に建設されて以来、本市生涯学習活動及び社会教育活動の拠点施設の一つとして重要な役割を担っています。

建築から40年以上が経過し建物全体の老朽化が著しく、生涯学習活動を推進するうえで必要となる設備も耐用年数を経過するなど、性能や機能の低下により十分な公民館活動を行うのが困難な状況にあり、抜本的な対応が必要な時期となっています。

（2）災害時の対応

公民館は、料理実習室や和室、トイレなどの基本的な生活設備が備わっており、一時的な居住場所や炊き出しを行うなど、いざという時の市民の生活を支える「災害時の拠点施設」としての役割が求められます。

しかしながら、昭和56年以前の旧耐震基準のもと建設された施設では、防災機能の強化や耐震対策の面から考えると、他の施設と比べても、その機能は劣っており、安心・安全な学習環境の提供が懸念されます。

<中央公民館に求められる施設の機能>

（1）地域の学習拠点としての機能	
地域の学習拠点となるよう、様々な学習機能を備えた施設	【例】インターネット環境の整備、防音機能の強化、移動図書配置スペースの確保、用途により広さを選べ使用状況が外から確認できる数種類の研修室、華道や茶道ができる趣ある和室、多目的利用が可能な中規模ホールで専門スタッフを要しない音響・照明等がある講堂、陶芸窯と水道設備がある実習工作室、使いやすい機能で災害時の炊き出し等が可能な料理実習室、裸足で活動できる健康運動室 など

(2) 地域住民のつながりの場としての機能	
誰もが集いたくなるような開かれた施設	【例】開放感がありぬくもりが感じられギャラリー機能があるロビー、誰でも気軽に利用できる休憩コーナー など
(3) 住民活動の拠点としての機能	
住民活動が活性化し、コミュニティ機能が充実する施設	【例】サークル活動の成果が展示できるギャラリー機能の充実、サークル用備品収納スペースの確保など
(4) 災害時の避難の拠点施設としての機能	
災害時の拠点施設としても対応できる安心・安全な施設	【例】耐震性・耐火性に優れた施設、救援物資の配給等を予想した広いスペースのロビー など

<中央公民館に望まれる施設の環境>

(1) 人にやさしい施設	
高齢者や障がいの有無にかかわらず、全ての市民が使いやすい施設	【例】身体障がい者対応エレベーターの設置、ゆるやかな勾配の手すり付階段、わかりやすい案内板の設置、出入りしやすいドアでゆとりある空間のトイレ、多機能トイレの設置 など
(2) 環境への配慮	
再生可能エネルギーの活用や環境・省エネに配慮した施設	【例】部屋ごとに調整できる空調・暖房設備、LEDライトの導入、自然光が入る部屋づくり など
(3) 立地の条件	
中心市街地に位置し集いやすい場所	【例】駅やバス停から近く公共交通機関の利用の便が良い場所、広い駐車場の確保

<おわりに>

公民館は、市民の学習ニーズや地域の実情に合わせた様々な学習機会を提供するなど、市民の最も身近な学習拠点であり、活力ある地域コミュニティを形成するための交流の場としても重要な役割を果たしています。

今後、新しい中央公民館の整備において議論が始まる際には、この意見書が一助となり、市民が生涯のいつでも、自由に学習の機会を選択し楽しく学べる「学びと集いの拠点施設」となることを願い提言とさせていただきます。

(2) 中央公民館利用サークルとの意見交換会

深川市教育委員会では、中央公民館利用サークルとの意見交換会を平成31年1月に2日間にわたり開催しています。

意見交換会には、中央公民館を利用の拠点としている25サークル37人が出席されたほか、欠席したサークルからは書面により意見をいただきました。

意見交換会では、施設の規模や機能、駐車場の確保、エレベーターの設置、利用料金など、下記のとおり様々な意見をいただいています。

○主なご意見（抜粋）

施設の規模・部屋の大きさ
<ul style="list-style-type: none"> ・会員数が減っているため5～6人用の小さい部屋で十分。 ・仕切りにより利用人数に合わせた広さで使えるようになると良い。 ・講堂は現在と同程度の広さが良い。 ・視聴覚室は歌を歌うにしては天井が低くせまい。 ・広い駐車場を確保してほしい。 ・トイレを広くしてほしい。 ・小さな施設（平屋建て）で良いので早く建て替えてほしい。 ・派手な施設ではなく素朴な施設とし、できるだけ予算は抑えてほしい。
必要な機能・設備
<ul style="list-style-type: none"> ・エアコンを設置し冷暖房は部屋毎に調整できるようにしてほしい。 ・エレベーターを設置してほしい。 ・各階の全トイレを洋式（洗浄機能付便座）にし、エアータオルをつけてほしい。 ・折りたたみ式の客席にしてほしい。 ・ステージが高すぎるので低くした方が場面を選ばない。 ・移動式のカラオケ、踊り等で使用できる音響設備があると助かる。 ・サークル用のロッカーがあると便利。 ・コンセント（使用電力）を増やしてほしい。
利用料金
<ul style="list-style-type: none"> ・現施設は無料が魅力。公民館の性質上無料であるべき。新しい施設も無料が良い。 ・低料金であれば利用料金もやむを得ない。
その他
<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の利用の便が良い場所が良い。 ・料理実習室や講堂は1階に設置してほしい。 ・現在の施設は雨漏りするなど老朽化が進んでいるので早急に建て替えてほしい。 ・現在の施設は窓が少なく暗いので解消してほしい。階段の幅も広くしてほしい。 ・今の場所で建替えた場合、長期間活動ができなくなるのが心配。その間だけでも生きがい文化センターやみ・らいを無料で使用できるようにしてほしい。 ・人口が減るなか建て替えが必要か？現施設を改修して使えば良いのでは。

(3) 各種アンケート調査等

本市では「立地適正化計画」や「第六次総合計画」「地域公共交通網形成計画」等の各種計画策定の際に、将来のまちづくりや公共交通等に関して、アンケートやヒアリング調査を行いました。

その際のご意見として「JRからバスへの乗り継ぎ」や「深川駅から市立病院や学校等へのバス運行」「バスターミナルの設置」「市立病院前の待合所の充実」など、下記のとおり様々な意見をいただいています。

○主なご意見（抜粋）

- (1) 深川市のまちづくりに関する意識調査（立地適正化計画）
- ・ 深川駅にもバスを増便し、もう一つのターミナルのようにしてほしい。
 - ・ JRとバスの乗継がうまくいっておらず、バス発車後にJRが深川に着くことが多々あり時間をつぶすところが無い。
- (2) 深川市まちづくりアンケート調査（第六次深川市総合計画）
- ・ 駅前に各方面行の路線バスの停留所があれば便利。
- (3) 深川市まちづくりアンケート調査（まち・ひと・しごと創生総合戦略）
- ・ 深川駅に着いてもバスがどこから走るのかなどの案内が不十分。他地域から来た人もすぐに分かる交通網が必要。
- (4) 地域公共交通ニーズ調査等（地域公共交通網形成計画）
- ①自治会等住民ヒアリング調査（公共交通座談会）
 - ・ 市立病院の待合は寒くて冬はつらい。暖かい待合がほしい。
 - ・ 深川駅にもバスで行ければ、市外から来た方にもバスを使ってもらえる。
 - ・ 病院等に行くために深川駅で乗換えが出来ればよい。
 - ②高校生・大学生通学手段アンケート調査
 - ・ 冬の間だけ深川駅から学校までバスをだしてほしい。
 - ・ 簡易形式でも良いのでターミナルは作ったほうが良い。
 - ③公共交通に関する市民アンケート調査
 - ・ 市民の集まる場所を有効活用できるバス運行を願う。
 - ・ 深川駅と市立病院との連絡バスは必要だと思う。
 - ・ 深川市立病院の待合所は狭く冬はとても寒い。
 - ④事業者ヒアリング調査
 - ・ バスセンターを整備するなら待ち時間を潰せるような複合施設として欲しい。

上記のほか、市議会や公共交通に関する会議でも、JRとバスの接続やバスターミナルの整備等について議論いただいているほか、各種団体等から中央公民館の建て替えについて要望をいただいています。

2. 基本計画検討開始後の経過（令和4年4月以降）

（1）学生ワークショップ

本市では「自分（学生）が利用したい機能（空間）を出し合い、魅力とにぎわいある空間へ！」をテーマとした学生ワークショップを令和4年6月に開催しています。

ワークショップには、JR深川駅やバスを利用する市内の短期大学、看護学院、高校に通う生徒・学生16人に参加いただき、下記のとおり様々なアイデアや意見をいただいています。

○主なアイデア・ご意見（抜粋）

複合施設への期待
<ul style="list-style-type: none"> ・JR等の待ち時間を活用できる空間がほしい。 ・学生の帰宅時間等に利用できる施設となってほしい。
利用したい機能（空間）
<ul style="list-style-type: none"> ・駅にはテーブルが無く、学習できる環境がないことから、1人または友達同士で使用できる学習スペースがほしい。 ・列車通過時を想定した防音機能や手元灯など、学習環境に配慮されたスペースにしてほしい。 ・飲食の持ち込みのほか、ファーストフードやカフェがほしい。 ・道の駅のような深川の特産品の販売スペースや、ドラッグストアがほしい。 ・貸出可能な図書コーナーやPCコーナーがほしい。 ・親子や子どもが遊べるスペースがあると良い。 ・図書コーナーと連携した絵本の読み聞かせコーナーがあると良い。 ・深川の郷土展示や防災情報を発信するコーナー、観光案内所があると良い。 ・軽運動や筋トレができるスペースがほしい。 ・雨に濡れないように駅から直結してほしい。 ・屋外に休憩や子どもが遊べる憩いの広場、大きな駐車場がほしい。 ・映画館や休日も営業している病院、一時託児所、ロッカー、ゲームセンター、PCを活用したeスポーツのできる防音設備のある空間があると良い。
利用したい施設デザイン・設備
<ul style="list-style-type: none"> ・建物は2～3階建てで、大きな窓によって明るく開放感があり、外の景色が見えるようにしてほしい。 ・木を用いた落ち着いた雰囲気や観葉植物のある過ごしやすい空間がほしい。 ・エレベーターの設置などユニバーサルデザインに配慮したほうが良い。 ・フリーWi-Fiや充電できるコンセントを備えてほしい。 ・バスの運行状況や駐車場が分かる電子掲示板、乗車券の販売所がほしい。
運営ボランティア等の可能性
<ul style="list-style-type: none"> ・学生がボランティア活動等を行えるよう運営方法を検討してほしい。

(2) 中央公民館利用サークルの意見を聴く会

深川市教育委員会では、中央公民館利用サークルの意見を聴く会を令和4年6月に2日間にわたり開催しています。

意見を聴く会には、中央公民館を利用の拠点としている28サークル38人が出席されたほか、欠席したサークルからは書面により意見をいただきました。

意見を聴く会では、施設の規模や機能、W i - F i の整備、開館時間、使用料金のほかに、若者の意見を取り入れるべきなど、下記のとおり様々な意見をいただいています。

○主なアイデア・ご意見（抜粋）

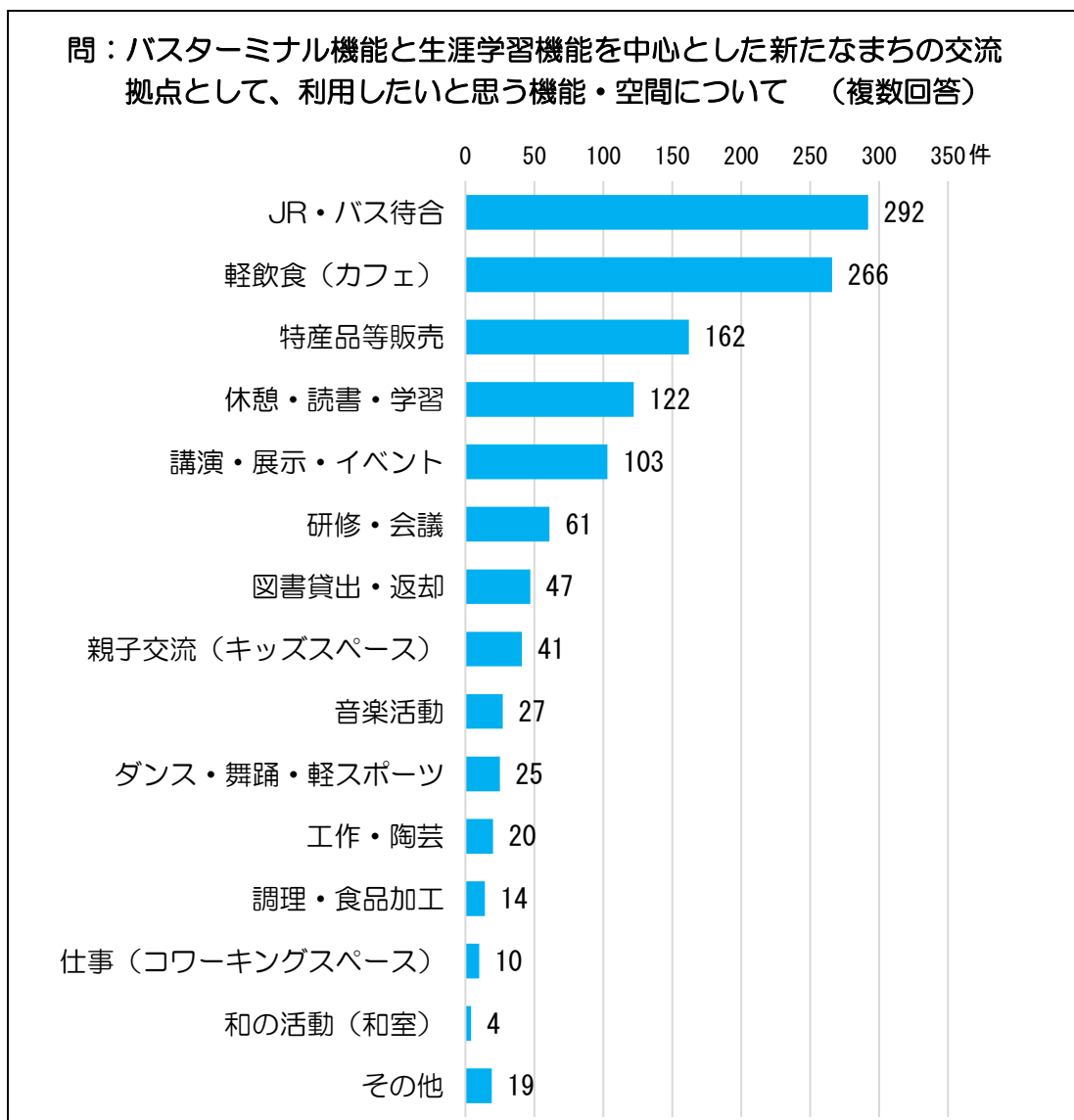
部屋の大きさ・規模
<ul style="list-style-type: none"> ・狭過ぎて利用できなければ意味がないので、ある程度の広さが必要だと思う。 ・少人数でも使用しやすいように小さな部屋も作ってほしい。 ・現在の講堂のように天井が高い部屋があれば良いと思う。 ・今の公民館のステージは機能性が悪い。舞台袖を広く取り、できればその続きに控室を作ってもらえると舞台運営が時間的にかなり短縮される。
機能・設備
<ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー化は外せない条件である。エレベーターを設置してほしい。 ・類似している施設が増えるともったいないと思う。特徴がある部屋があると、それぞれのサークルが施設を使い分けられることができるのでは。 ・オンライン設備を整備し、W i - F i 使用ができるようにしてほしい。 ・サークル利用者の荷物が置いてあり、他の利用者が部屋を使用できないことがある。新しい施設ではそのようなことがないよう配慮を。 ・全てのサークルが備品や使用物品を置いていけるように、ロッカー配置を検討してほしい。
使用料金
<ul style="list-style-type: none"> ・全部無料とまではいかなくとも、1人あたり150円程度、または部屋の大きさによって何百円といった形にしてもらえればありがたい。 ・無料で使わせてもらえたらありがたい。 ・新しい良い施設を作って維持するためには、相当な経費がかかるはずなので、使用料は少しでも使用者に負担してもらわなければ、やっていけないと思う。 ・生きがい文化センターや他の施設とのすみ分けをするためにも、高度な機能を持った施設は必要ない。その代わりに使用料金は無料として進めてほしい。
その他、全般
<ul style="list-style-type: none"> ・新しい施設には、十分な駐車場ができるのか。 ・完成まで何年かかかることを考えると、自分達の代ではなく若者の意見を取り入れるべきではないか。 ・バスターミナルとの複合施設には大賛成。

(3) 公共交通に関する利用動向調査

本市では、持続可能な公共交通網の形成を図るため、公共交通網リバイバルプランの策定を進めており、その中で公共交通に関する利用動向のアンケート調査を令和4年7月に行いました。

アンケート調査では、公共交通の拠点施設となる複合施設の整備に関し、利用したいと思う機能や空間についての問いを設け、下記のとおり回答をいただいています。(調査対象数1,300世帯、回答数558世帯、回収率42.9%)

○アンケート結果（複合施設関連分抜粋）

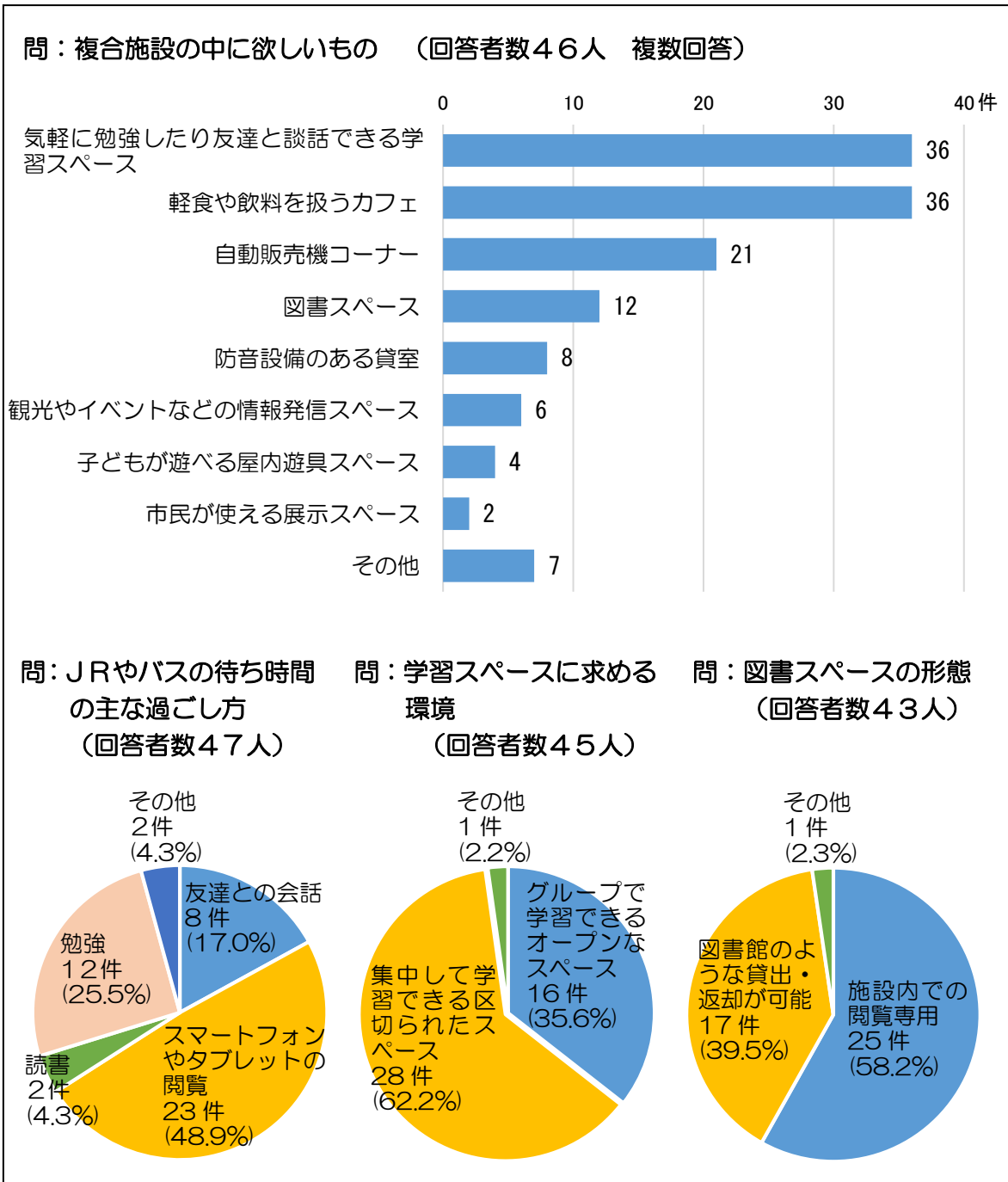


上記のうち、「その他」の回答として「フリーWi-Fi」や「広い駐車場」「相談窓口」「スケボーパーク」などの整備を求める意見のほか、「バスを利用するとは思えない」といった意見をいただいています。

(4) 深川駅利用学生アンケート調査

本市では、JR深川駅を利用して市外へ通学する生徒・学生を対象に、魅力的でにぎわいある複合施設の整備に向けた学生アンケート調査を令和4年8月から9月にかけて行い、下記のとおり回答をいただいています。

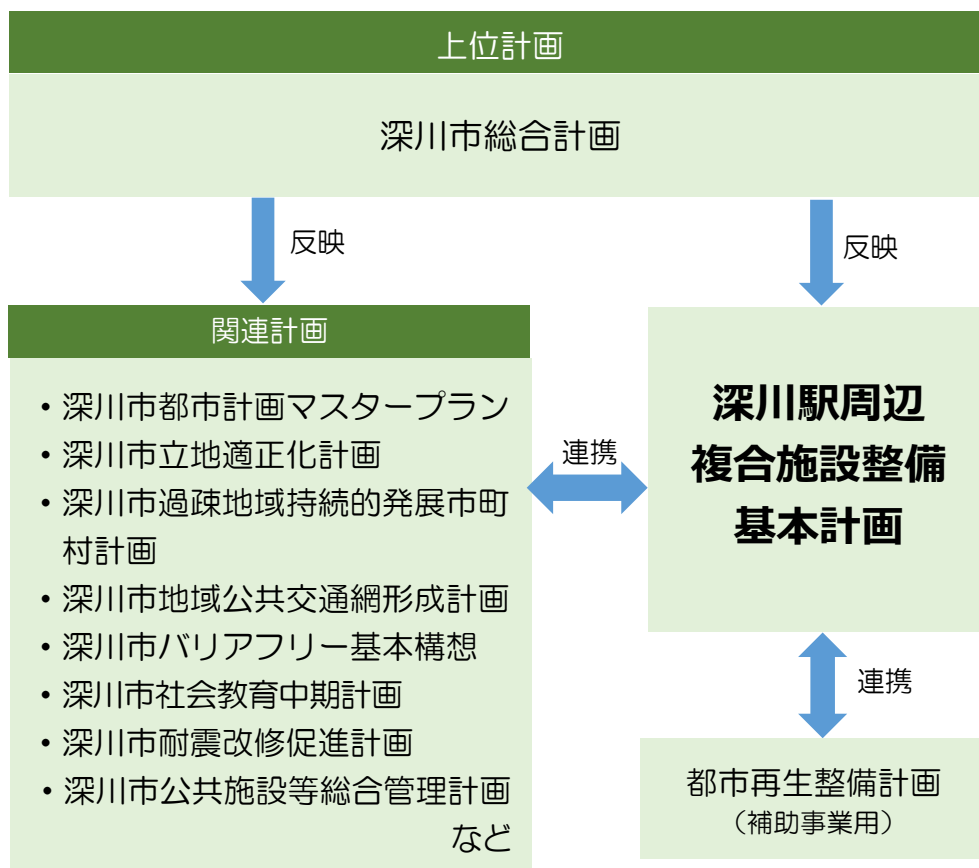
○アンケート結果



第4章 関連する計画

1. 関連計画との整合性

基本計画の策定にあたっては、次に示す関連する各種計画に盛り込まれた方向性や施策との整合性を図ります。



2. 関連する計画

複合施設等の整備については、市の各種計画に位置付けていますので、その内容を抜粋して掲載します。 ※【】内は計画期間

(1) 第六次深川市総合計画【令和4年度～令和13年度】

第六次深川市総合計画は、新しい時代に向けたまちづくりの基本方針として、市民と行政がともにまちづくりを進めるための最上位の計画として定められたものです。本計画に位置付けている当該施設の整備等に関連する内容を以下のとおり抜粋します。

各論3 快適な生活基盤の構築に関する分野

(1) 交通・道路「市民の交通手段の確保」

- ・交通結節機能の強化に向けた公共交通拠点施設の整備・検討を行います。

(2) 住環境「市街地の形成」

- ・深川駅周辺の中心市街地は、その立地条件を生かし、まちなかの活性化や市民生活の向上等に配慮した良好な市街地環境となるよう、都市機能の集積化を促進し、地域交流センターや公共交通拠点施設などを含めた複合施設の整備を視野に検討を進めます。

各論4 人材育成と教育・文化・スポーツに関する分野

(1) 人材の育成「生涯学習の推進」

- ・老朽化が著しい中央公民館の建て替えに向けた検討・整備を進めます。

(2) 深川市都市計画マスタープラン【令和2年度～令和23年度】

深川市都市計画マスタープランは、土地利用やまちづくりに必要な都市計画事業の基本方針を定めたものです。

本計画に位置付けている当該施設の整備等に関連する内容を以下のとおり抜粋します。

都市づくりの基本方針

(2) 道路・交通体系の方針

- ・道路とJR等の公共交通機関との交通結節点の機能強化を図り、乗換えの利便性向上や歩行者動線に配慮した施設の配置を検討します。

地域まちづくりプロジェクト

プロジェクト1 中心市街地再生プロジェクト

○賑わいのある買い物空間づくりプロジェクト

- ・まちなかへの公共施設の立地誘導や集約による拠点創出を目的とした用途地域変更の検討（駅前周辺や中央公民館周辺地区）

○「まちなか」交流空間づくりプロジェクト

- ・公共施設の集約に合わせた市民交流機能の整備

(3) 深川市立地適正化計画【令和2年度～令和23年度】

深川市立地適正化計画は、都市再生特別措置法に基づき、都市計画法を中心とした従来の土地利用計画に加え「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方に基づき、居住及び都市機能の誘導を図り、コンパクトなまちづくりを推進することを目的とした計画です。

本計画に位置付けている当該施設の整備等に関連する内容を以下のとおり抜粋します。

6章 都市機能及び居住を維持・誘導するための施策

1. 誘導区域における施策

(2) 都市機能誘導区域における施策

- ・ 駅前周辺地区や中央公民館や文化交流ホール「み・らい」、市立病院が立地する中心市街地地区については、公共施設の集約により更なる利便性の向上や、まちなかの拠点となるよう、生涯学習機能を備えた地域交流センターやバスターミナル等交通結節点を含めた複合施設整備の検討を進め、あわせて用途地域の変更を検討します。

(4) 深川市過疎地域持続的発展市町村計画【令和3年度～令和7年度】

深川市過疎地域持続的発展市町村計画は、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法に基づき、過疎地域としての役割、課題、目指す姿を明らかにし、過疎対策を総合的かつ計画的に実施することを目的として定めたものです。

本計画に位置付けている当該施設の整備等に関連する内容を以下のとおり抜粋します。

5. 交通施設の整備、交通手段の確保

○公共交通拠点施設整備

- ・ 広域公共交通や市内公共交通の交通結節機能の強化に向け、運用コスト等を踏まえ他の機能を有する施設との複合化を合わせて検討するなどして、公共交通拠点施設を整備する。

9. 教育の振興

○社会教育

- ・ 建築から45年が経過している中央公民館は、現在の利用形態や市民ニーズを踏まえ、他の施設との複合化・集約化も含めて検討し、新たな生涯学習の拠点施設としての更新を図る必要がある。

(5) 深川市地域公共交通網形成計画【平成28年度～令和5年度】

深川市地域公共交通網形成計画は「地域にとって望ましい公共交通網のすがた」を明らかにするマスタープランとしての役割を果たすもので、持続可能な公共交通体系の構築を目指し策定したものです。

本計画に位置付けている当該施設の整備等に関連する内容を以下のとおり抜粋します。

計画の目標

【目標】公共交通の利用を促進し、活性化させる

- ・ JR深川駅のバリアフリー化や拠点となるバス待合所のあり方についても、公共交通の利用促進策として検討を進めます。

(6) 深川市バリアフリー基本構想【平成28年度～令和13年度】

深川市バリアフリー基本構想は、すべての人が暮らしやすく利用しやすいユニバーサル社会を目指すために策定したものです。

本計画に位置付けている当該施設の整備等に関連する内容を以下のとおり抜粋します。

第1章 バリアフリー基本構想策定にあたって

基本構想策定の背景と趣旨

(2) 策定の趣旨

- ・ 基本構想は、JR深川駅や市立病院前バス停などの交通結節点と公共施設を結ぶ中心市街地を重点整備地区と定め、その施設間を結ぶ道路（特に歩道など）や市役所をはじめとする多数の市民が利用する建築物などのバリアフリー化を推進します。

第5章 重点整備地区の設定及び生活関連施設、生活関連経路の選定

生活関連施設及び生活関連経路の選定

(1) 生活関連施設の選定

- ・ 生活関連施設には、公共・民間施設を問わず、様々な施設が該当します。「相当数の高齢者、障がい者等が利用する」という観点から、市民の利用の実情に合わせ、次の要件を考慮し、優先的にバリアフリー化を実施する必要性のある施設を生活関連施設として選定します。

【生活関連施設（抜粋）】中央公民館

(7) 第9次深川市社会教育中期計画【平成30年度～令和4年度】

第9次深川市社会教育中期計画は「輝く深川（まち）をめざして 学びあい 広げよう 地域の絆」をキャッチフレーズに、本市における社会教育推進の指針として策定したものです。

本計画に位置付けている当該施設の整備等に関連する内容を以下のとおり抜粋します。

第4章 現状と課題、推進方策**第1節 市民が自主的・主体的に学べるまちづくり**

生涯学習活動の拠点となる社会教育施設は、老朽化により修繕箇所が増加している現状にあります。

今後も多様な学習活動が展開できるよう、引き続き計画的な整備に努める必要があります。

(8) 深川市耐震改修促進計画【令和3年度～令和12年度】

深川市耐震改修促進計画は、昭和56年以前に建築された市内の既存建築物の耐震性を確保するため、耐震診断とその結果に基づく耐震改修を計画的に促進することにより、今後予想される地震災害に対して市民の生命及び財産を守ることを目的として策定したものです。

本計画に位置付けている当該施設の整備等に関連する内容を以下のとおり抜粋します。

市有建築物の耐震化の目標

市有の公共建築物は、利用する多くの市民の安全はもとより、災害時においては拠点施設としての機能の確保の観点からも耐震性の確保が強く求められます。

多数利用建築物のうち耐震化が必要な市有建築物は、高等看護学院、中央公民館、深川市役所の3棟です。

高等看護学院については、令和2年度現在改築工事が始まり、深川市役所についても、令和3年度から改築予定のため、これら2施設については解消される見込みです。

残りの施設についても、計画的に耐震化を推進します。

(9) 深川市公共施設等総合管理計画【平成28年度～令和7年度】

深川市公共施設等総合管理計画は、深川市が所有する全ての公共施設等を対象に、今後の施設の更新、維持管理のあり方について、総合的かつ計画的な管理を推進するために策定したものです。

本計画に位置付けている当該施設の整備等に関連する内容を以下のとおり抜粋します。

分野別の考え方**(1) 公共施設**

- ・新たな施設整備については、施設の性格、必要性及び運用コストを慎重に検討し、単独整備よりも施設の複合化・集約化を優先することとします。

第5章 整備の方向性

1. 施設整備に関する財政措置

国では、立地適正化計画に基づき、市町村等が行う一定期間内（概ね5年）の都市機能や居住環境の向上に資する公共公益施設の整備等に対して、集中的な支援を行うため「都市構造再編集中支援事業（個別支援制度）」を令和2年度に創設しました。

本事業が創設され、本市でも令和2年度に立地適正化計画を策定したことから、複合施設の整備においても、より有利な補助事業の活用が見込めることになりました。

なお、今回本市が整備を検討している施設は、本補助事業の「高次都市施設」に該当しますが、高次都市施設等で市町村が実施する場合は「合築」が要件となります。

<都市構造再編集中支援事業（個別支援制度）>

（1）事業主体：市町村等

（2）国費率：1/2（都市機能誘導区域内）

（3）市町村が実施する事業の対象施設（一部抜粋）

道路、公園、河川、下水道、地域生活基盤施設（緑地・広場・駐車場等）、高次都市施設（地域交流センター、複合交通センター等）、誘導施設（医療施設、社会福祉施設、教育文化施設等）など

2. 整備の必要性

これまで整理したとおり、中央公民館は施設・設備の機能低下等に加え、耐震化やバリアフリー化に未対応など安全性や利便性などに多くの課題を抱えており、早急な対応が必要な状況にあります。

一方、バスターミナルについては、バス事業者が運営していたターミナル廃止後の懸案事項となっており、高齢化が進行し持続可能な公共交通体系の構築が必要な中、交通結節機能の強化に向けた公共交通拠点施設の整備が求められています。

以上の状況や市議会等での議論を受け、市では中央公民館とバスターミナルの整備に関して、庁内の関係部局で検討を重ねたほか、補助事業の適用に関して北海道と協議を行いました。

その結果、これらの施設はまちなかの活性化や市民生活の向上等のためには必要不可欠な施設であり、有利な補助事業の活用も確認できたことなどから、市としてはこれまでの検討経過等を踏まえ、各種課題を早急に解消するため、これらの施設を「新たに整備」する必要があると判断しました。

3. 整備の方法

深川市公共施設等総合管理計画では、新たな施設整備については、単独整備よりも施設の複合化・集約化を優先するとしています。

また、前述のとおり、国の補助事業を活用する場合の要件が他施設との合築となっています。

さらには、複合化により施設整備や維持管理等にかかるコストの縮減や、施設の多機能化により利便性が高まり利用促進等が期待できることなどから、施設整備にあたっては、生涯学習機能とバスターミナル機能を中心とした「複合施設」として整備を進めます。

【整備の方向性】

**生涯学習機能とバスターミナル機能を中心とした
「複合施設」として新たな施設を整備**

4. 計画区域と建設位置

(1) 計画区域と土地の抽出

複合施設の整備にあたっては、敷地内にバスレーンや施設利用者の駐車場等を設けることから、一定の広さの敷地が必要となります。

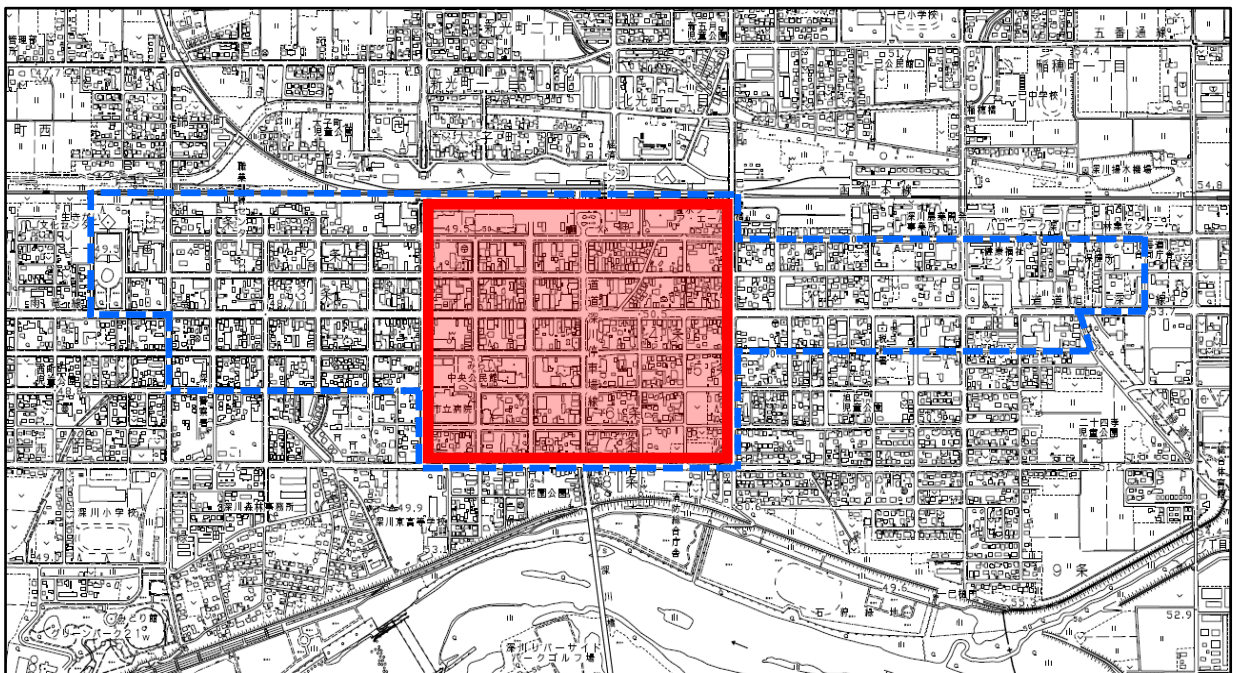
ただし、JR深川駅周辺を中心とした市街地中心部には、複合施設整備を可能とする広さで未利用の市有地は無く、民有地を取得することが必要になります。

また、複合施設の整備にあたり活用を予定している国の補助事業（都市構造再編集中支援事業）では、市町村が作成する都市再生整備計画に基づき実施する事業が対象となります。

その際に、立地適正化計画で定める都市機能誘導区域内に「都市再生整備計画の区域」を位置付け、その区域内で取り組むことで国の支援が手厚く受けられることとなります。

このことから、下図のとおり都市再生整備計画の区域を定め、その区域内で一定程度の広さが確保できる可能性がある土地として「現中央公民館付近」「4条8番付近」「JR深川駅西側」「1条9番付近」の4カ所の土地を抽出しました。

＜都市再生整備計画区域＞



凡 例	
■	都市再生整備計画区域
---	立地適正化計画都市機能誘導区域

(2) 建設位置の比較検討

建設位置の選定にあたっては「市民の利便性」や「事業の実現性」「まちなかの活性化」「用地確保の容易性」「建設事業費に係る財政負担」など様々な視点から検討する必要があることから、次の内容を前提条件としました。

①市民の利便性

- ・市民の利便性が確保できる施設（商業施設、病院、公共施設、公共交通機関等）が近くにあること。
- ・既存施設（現中央公民館）を利用しながら整備が可能であること。

②事業の実現性

- ・施設のほかバスレーンや施設利用者の駐車場等も設けることから、広い敷地を確保できる場所であること。
- ・交通結節機能の強化を図るため、JRと路線バス等の乗り継ぎが容易に行える場所であること。

③まちなかの活性化

- ・各種計画との整合性が図られ、まちなかのにぎわい創出等が図れる場所であること。

④用地確保の容易性

- ・国の補助事業の期間が概ね5年とされているため、店舗や住宅等が少ないなど用地確保に多くの時間を要しない場所であること。

⑤建設事業に係る財政負担

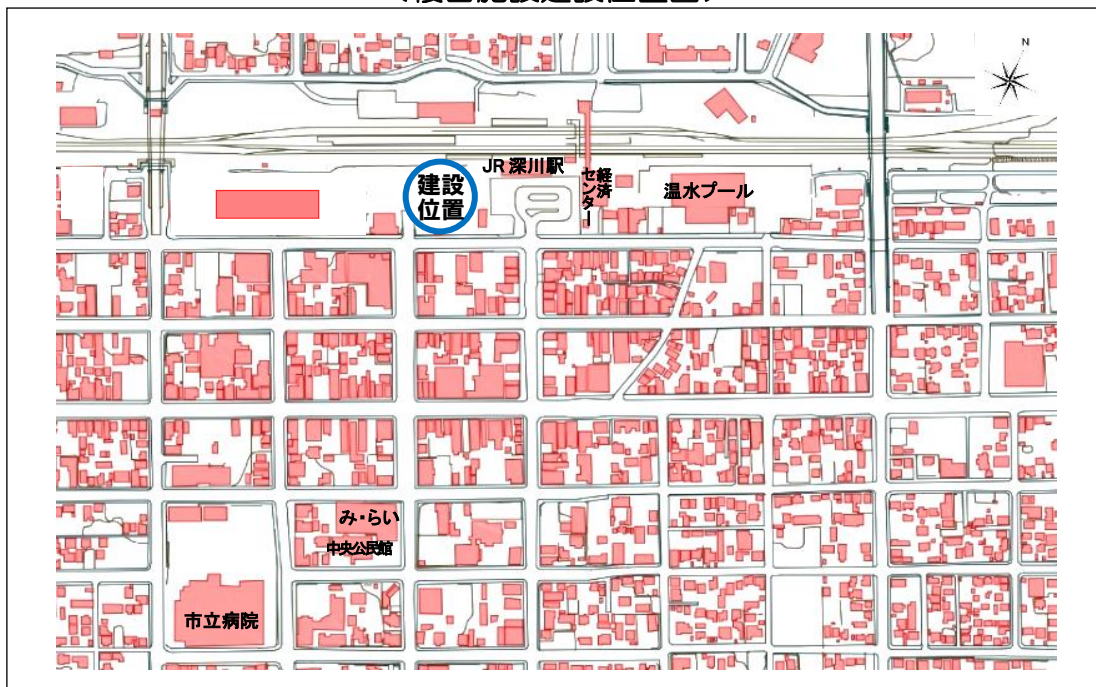
- ・建設事業に係る財政負担を可能な限り抑制するため、店舗や住宅等が少ないなど用地確保の経費を極力抑えることが可能な場所であること。

(3) 建設位置の選定

市では、建設位置の選定にあたり、抽出した4カ所の土地について、前述の前提条件で比較検討しました。

その結果、JR深川駅西側が「JR深川駅との連携が可能な位置で交通結節機能の強化が図れる」「敷地面積が広く施設等の配置や駐車場等の確保に余裕があり事業の実現性がある」「他の用地と比べ建築物や関係する権利者が少ないことから用地確保がスムーズで財政負担も抑制される」など、他の土地より優位な状況にあると総合的に判断し、複合施設の建設位置は「JR深川駅西側」とします。

<複合施設建設位置図>



【建設位置】

J R 深川駅西側に建設

第6章 基本方針

1. 基本理念

複合施設は、生涯学習や公共交通等の拠点施設として、まちなかの活性化や市民生活の利便性向上等を図る施設となります。

複合施設の建設にあたっては、各種課題の解消をはじめ、学習機会の拡充や様々な世代の交流の促進、さらには市民生活の利便性向上やまちなかのぎわい創出などにつなげ、市民に親しまれ利用しやすい施設を目指して整備を進めます。

また、将来を見据え多様化する市民ニーズや時代の変化に柔軟に対応するとともに、華美にならず経済性と機能性のバランスがとれた施設を目指して整備を進めます。

さらに、SDGsの理念に沿って、持続可能なまちづくりに資する施設を目指します。

2. 基本コンセプト

基本理念に基づき、複合施設の果たすべき役割と機能を踏まえ、次のとおり基本コンセプトを設定しました。

【基本コンセプト】

「まなぶ」「ふれあう」「つながる」まちの交流拠点

＜基本コンセプトの考え方＞

- ・まなぶ …… 知識や技術を習得し生活の質的向上を図る場
- ・ふれあう …… 気軽に立ち寄り憩い交流する場
- ・つながる …… 複数の交通手段をつなぎ様々な世代が集う場

3. 基本方針

基本理念や基本コンセプトを踏まえ、次の考え方を基本方針として整備を進めます。

基本方針1 誰もが訪れやすく利用しやすい施設
<ul style="list-style-type: none"> ・深川駅周辺の好立地を活かし、集いやすく気軽に立ち寄れる施設の機能や配置とし、にぎわいが創出できる施設とします。 ・ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、年齢や障がいの有無等にかかわらず誰もが利用しやすい施設とします。
基本方針2 多様な学びや交流が可能となる施設
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者まで幅広い世代が、生涯学習活動や各種会議・研修、イベントなど様々な用途で活用できる機能とスペースを用意し、多様な学びと交流の促進を図る施設とします。
基本方針3 便利で安心な暮らしを支える施設
<ul style="list-style-type: none"> ・バスターミナルを設けJRやバスなど複数の交通手段をつなぐ交通結節機能の強化を図り市民生活を支える施設とします。 ・災害発生時の避難場所等としての機能を設け市民生活を守る施設とします。
基本方針4 環境に配慮した施設
<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーの活用や省エネルギー化等により、建設や運用等のライフサイクルを通じ環境負荷低減に努める施設とします。
基本方針5 経済性と機能性のバランスがとれた施設
<ul style="list-style-type: none"> ・無駄がなく華美にわたらない「経済性」と、施設の目的が達成でき利用しやすい「機能性」を併せ持ったバランスがとれた施設とします。 ・人口減少や社会情勢など将来の変化に柔軟に対応し、適切な維持管理を計画的に実施することで長期にわたり利用できる施設とします。
基本方針6 誇りと愛着を感じるまちの顔となる施設
<ul style="list-style-type: none"> ・市民の皆さんが誇りと愛着を感じることができるよう、地域材の活用や外観デザインの工夫等により本市の顔としてふさわしい施設とします。

第7章 整備計画

1. 導入する機能

複合施設の機能は、基本方針の実現に向けて「生涯学習機能」「交流機能」「交通機能」の3つを基本機能とし、主な役割を次のとおり設定します。

基本機能	主な役割
生涯学習機能	市民が気軽に生涯学習活動や各種会議・研修等ができる場 (部屋等) 研修室、会議室、多目的ホール、和室、工作室、視聴覚室、調理室 等
交流機能	幅広い世代が集い、にぎわいや交流が創出できる場 (部屋等) 多目的スペース、多目的ルーム、キッズルーム、スタディ&コワーキングルーム、カフェ、屋外多目的広場 等
交通機能	路線バス等の乗車を快適に待つことができる場や安全に乗り降りができる場 (部屋等) 待合、公共交通レーン、乗降場

2. 導入機能の具体的内容

導入する機能の具体的な内容について、3つの基本機能ごとに整備の考え方やイメージを次のとおり整理します。

なお、整理した内容については現時点での案であり、施設の目的や役割をはじめ、利用者の利便性や維持管理の効率性、さらには施設の規模や事業費等を踏まえ、今後の設計の中で詳細を検討するため変更となる可能性があります。


(1) 生涯学習機能

①整備の考え方


生涯学習活動の拠点施設として、幅広い世代の人たちが自由に学習の機会を選択し、多様な学びを実現できる施設となるよう必要な環境を整えます。

なお、サークル活動のスペースを交流機能と共用することで、空間の有効活用を図ります。

②各部屋の整備イメージ

導入機能 (部屋名)	整備イメージ
研修室・ 会議室等	<ul style="list-style-type: none"> 各種サークル活動や会議など様々な利用が想定されるため、面積が異なる複数の部屋を整備します。 他の部屋との共用や可動間仕切りの設置により、空間の有効活用を図り、過大な部屋数とならないようにします。 壁面や床面等の工夫によりダンスや舞踊、体操、軽スポーツなど様々な用途での使用が可能となるよう検討します。 <div data-bbox="898 1534 1342 1854" style="text-align: right;">  </div>

導入機能 (部屋名)	整備イメージ
多目的 ホール	<ul style="list-style-type: none"> • 現中央公民館の講堂のように、一定の広さを有する部屋の設置を計画します。 • 面積やステージの設置、機能、設備等の具体については、類似施設の状況や複合施設全体の規模、事業費等を踏まえ検討します。 • 可動間仕切りの設置により、利用人数や利用形態に合わせ、部屋を分割して利用できるよう検討します。 • 災害時の避難場所となることを想定し、整備する階層を決定します。  <p style="text-align: right; margin-right: 20px;">ホールの例</p>
和 室	<ul style="list-style-type: none"> • 現中央公民館で2室ある部屋を集約して整備します。 • 幅広い用途での利用が想定されるため、誰でも利用しやすいづくりや備品を整備します。 • 茶道の炉等の設置については、利用実績や類似施設の状況を踏まえ検討します。 • 災害時の避難場所となることを想定し、整備する階層を決定します。  <p style="text-align: right; margin-right: 20px;">和室の例</p>
工作室	<ul style="list-style-type: none"> • 現中央公民館で3室ある部屋を集約して整備します。 • 陶芸や七宝焼等での利用を想定していますが、面積や機能、設備等の具体については、利用実績や類似施設の状況を踏まえ検討します。 • サークル活動以外にも、会議等での利用が可能につくりとなるよう検討します。
視聴覚室	<ul style="list-style-type: none"> • 楽器演奏等ができるよう防音対策を講じた部屋とします。 • サークル活動以外にも、会議等での利用が可能につくりとなるよう検討します。

導入機能 (部屋名)	整備イメージ
調理室	<ul style="list-style-type: none"> 調理台や調理設備等を備え、サークル活動や体験学習等の対応が可能となる部屋とします。 面積や機能、設備等の具体については、利用実績や類似施設の状況を踏まえ検討します。 災害時の炊出し等を行うことも想定し、整備する階層を決定します。  <p style="text-align: right;">調理室の例</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ロビー等ではサークル活動の成果を展示するコーナーを検討します。 サークル用備品の収納スペースについては、複合施設全体の規模や事業費を踏まえ検討します。

※導入する部屋の名称や内容は今後の検討で変更する可能性があります。

③使用料について

現在の中央公民館では、社会教育活動等のために使用する場合は使用料を免除していますが、複合施設の使用料については、市内類似施設や他市の状況等を踏まえ検討します。


(2) 交流機能

①整備の考え方

深川駅周辺の新たな拠点として、幅広い世代の人たちが自由に訪れ、交流の促進やにぎわい創出が図れる施設となるよう、必要な環境を整えます。

なお、多目的に使用する空間（多目的スペースや多目的ルーム）を、生涯学習機能や交通機能のスペースと共用することで、空間の有効活用を図ります。

②各部屋の整備イメージ

導入機能 (部屋名)	整備イメージ
<p>多目的 スペース (ロビー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 施設全体のロビーであり、来館者に広く開かれた場所として、誰でも気軽に休憩や待合せ、交流等で利用できるスペースとします。 ロビー機能に加え、展示やミニコンサート等の催しのほか、バスの待合やカフェの客席など多目的に利用できる空間とします。 観光や行政等の情報発信ができるよう、デジタルサイネージの設置を検討します。 魅力ある空間とするため、図書コーナーの設置を検討します。 イベント時は屋外の多目的広場や館内の各スペースと連携し一体的に使用できるよう検討します。  <p style="text-align: right;">多目的スペースの例</p>
<p>多目的 ルーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> サークル活動や各種会議、行政の臨時事務等多用途に使用できる部屋とします。 多目的スペースの近くに配置して、イベント時には連携した活用ができるよう検討します。
<p>キッズ ルーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの遊び場を設け、子育て世代が交流できる部屋とします。 コーナーの一角に授乳室を設けます。 多目的スペースの近くに配置して、様々な機能と連携して使用できるよう検討します。

導入機能 (部屋名)	整備イメージ	
スタディ& ワーキング グループ	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い世代が、学習や仕事、交流等で自由に利用できる部屋とします。 ある程度仕切られた部屋として、集中して学習や仕事等ができる空間とします。 公衆無線LANや電源付きの座席等を整備するなど、学生・生徒の学習やノマドワーカー※¹の作業スペースとして活用できる機能を設けます。(公衆無線LANは他の部屋でも使用できるよう整備します。) 	 <p>スタディルームの例</p>
カフェ	<ul style="list-style-type: none"> 市民や利用者が気軽に軽食を楽しめるようカフェの設置を検討します。 客席は多目的スペースを活用することで、空間の有効活用を図ります。 	 <p>カフェの例</p>
多目的広場 (屋外)	<ul style="list-style-type: none"> 屋外に各種イベントで活用できる広場を整備します。 イベント時は屋内の多目的スペースと連携して一体的な使用が可能となるよう検討します。 ベンチや木陰を設けるなど、日常的に市民の憩いの場として活用されるよう検討します。 イベントで使用しない場合は臨時駐車場として活用できるよう検討します。 冬期は堆雪場としての活用も想定します。 	 <p>多目的広場の例</p>

※導入する部屋の名称や内容は今後の検討で変更する可能性があります。

※1 ノマドワーカー：ノートパソコンやタブレット端末などを使い、Wi-Fi環境のある喫茶店やワーキングスペースなど、通常のオフィス以外のさまざまな場所で仕事をする人を指します。



(3) 交通機能

①整備の考え方

交通結節機能の強化に向けた公共交通の拠点施設として、安全で快適に路線バス等の公共交通機関が利用できるよう、待合や乗降所などの必要な環境を整えます。

なお、待合に使用するスペースと交流機能の多目的スペースを共用することで、空間の有効活用を図ります。

②各部屋の整備イメージ

導入機能 (部屋名)	整備イメージ
待 合	<ul style="list-style-type: none"> 待合用の椅子やテーブルの他、テレビ等を設置してバスを快適に待つことができるスペースとします。 公共交通に関する情報が提供できる機能を検討します。 待合の一部は、多目的スペースを活用することで、空間の有効活用を図ります。  <p style="text-align: right;">待合の例</p>
公共交通 レーン	<ul style="list-style-type: none"> 市内を運行する全社の路線バス等が利用できるレーン数を整備します。 路線バス以外の車両（温泉施設や学校の送迎バス等）の利用も想定します。 可能な限り一般車両や歩行者との動線の交錯を無くすことで、安全性を確保します。
乗降場	<ul style="list-style-type: none"> 待合から近い場所に乗降場を設置します。 JR深川駅や近隣施設からアクセスしやすい動線とします。 乗降場には雨等にあたらぬよう屋根を設置します。  <p style="text-align: right;">公共交通レーン・乗降場の例</p>

※導入する部屋の名称や内容は今後の検討で変更する可能性があります。

(4) その他の整備内容

①バリアフリー・ユニバーサルデザイン^{※2}の導入

「高齢者、障害者等の移動の円滑化の促進に関する法律」及び「北海道福祉のまちづくり条例」の整備基準に基づき、年齢や障がいの有無などにかかわらず、施設を利用する誰もが安全で快適に利用できる施設とします。

《主な内容》

- ・車いすやベビーカー等の利用に支障をきたさないよう、段差のない出入口や床とするほか、ゆとりある通路幅を確保します。
- ・上下階への移動が容易にできるようエレベーターを設置します。
- ・オストメイトや車椅子対応等の多目的トイレを設置します。
- ・子育て世代が利用しやすいよう授乳室等を設置します。
- ・案内表示は色や大きさ、配置等を工夫した分かりやすいものとし、音声情報や触知情報などの導入も検討します。

②再生可能エネルギーの活用・省エネルギー化の推進

再生可能エネルギーの活用と省エネルギー化の推進を検討し、環境負荷と維持管理コストを抑えた施設とします。

《主な内容》

- ・費用対効果を考慮して太陽光発電設備等の再生可能エネルギーの活用を検討します。
- ・断熱効果の高い工法や複層ガラスの採用等により断熱性能の向上を図ります。
- ・自然採光やLED照明等を採用し照明エネルギーの消費削減を図ります。
- ・熱源や空調等の機器類は効率的で省エネルギーの設備を選択します。

③地域材の活用

地域材の活用を検討し、木のぬくもりが感じられる居心地の良い空間づくりを目指します。

《主な内容》

- ・施設整備においては、事業費等を考慮した上で「深川市地域材利用推進方針」に基づき、木材の活用に向けて検討します。
- ・多くの方が利用する空間（多目的スペース等）の机や椅子等の什器について、木材の活用を検討します。

※2 ユニバーサルデザイン：障がいの有無や年齢、性別などにかかわらず、すべての人々が利用しやすいように製品やサービス、環境をデザインする考え方。

④防災対応

地震や水害等の災害時に市民生活を支える役割を担うことができるよう、必要な機能や設備を備えた施設とします。

《主な内容》

- ・災害が発生した際の「指定避難所」としての使用を想定しており、避難施設に適した耐震性やスペース、機能を設けることを検討します。
- ・水害時でも避難施設として機能するよう、災害対応が想定される部屋（和室や多目的ホール、調理室等）は、浸水の恐れのない階への配置を検討します。

⑤駐車場等の整備

現中央公民館は17台分の駐車スペースを整備していますが、施設の利用状況によっては駐車場が不足する可能性があることから、可能な限り必要な駐車台数が確保できるよう検討します。

《主な内容》

- ・施設や公共交通レーン等の配置を考慮しながら、現状より駐車台数を増やすよう計画します。
- ・障がいのある方などが利用できる幅の広い駐車スペースを配置します。
- ・屋外の多目的広場については、イベントで使用しない場合は臨時駐車場として活用できるよう検討します。
- ・駐輪場については適切な台数が停められるよう整備を検討します。

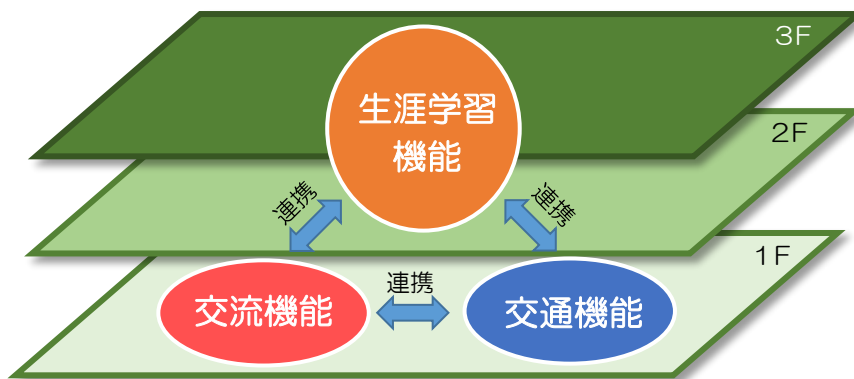
⑥その他

- ・機能により開館時間に違いが生じる可能性があるため、セキュリティ対策が適切に講じられる設備やフロア構成を検討します。
- ・来館者が安全・安心に施設を利用できるよう、感染症拡大防止のための設備や備品の整備を検討します。
- ・現在の中央公民館で行っている印刷・コピー機等の利用サービスなど、施設利用者の活動を支援する機能について検討します。

3. 整備イメージ

(1) 階層別に配置する機能のイメージ

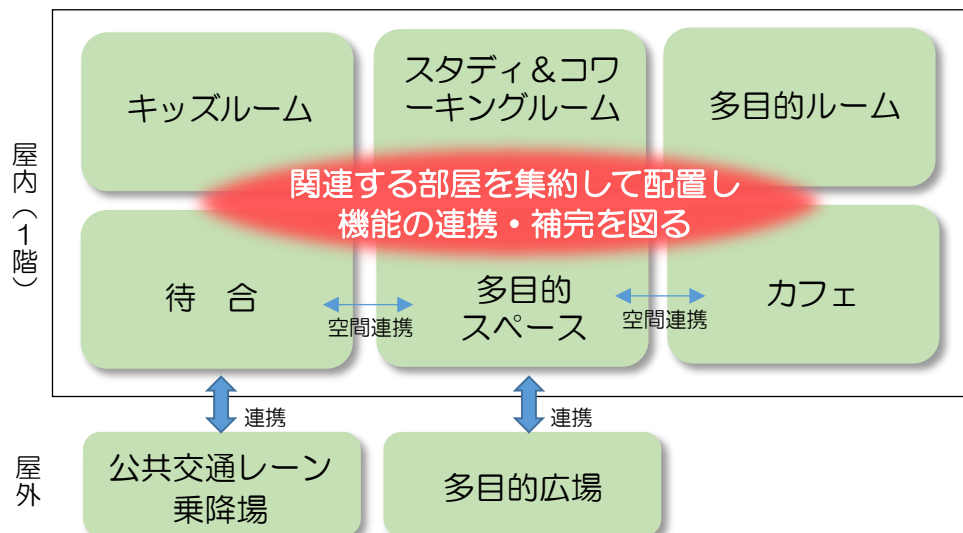
階層については、利用者の利便性や機能の関連性、維持管理の効率性等を考慮して、1階には待合などの「交通機能」のほか、幅広い世代が集い交流やにぎわいの創出を図る「交流機能」を配置し、2階以上には災害対応を考慮し、多目的ホールや研修室等の諸室で構成する「生涯学習機能」を配置することを基本に検討します。



※上記の図は階層構成をイメージしたもので、階数等を設定したものではありません。

(2) 1階のゾーニングイメージ

1階は、交流機能と交通機能に関連する部屋を集約して配置することで、機能の連携・補完を図り、訪れやすく利用しやすい施設として、交流の促進やにぎわい創出に努めます。



4. 配置計画

(1) 建設予定地の概要

建設予定地はJR深川駅の西側に位置し、現在は民間で整備された公園や飲食店等の用地として使用されています。

また、建設予定地の周囲では、バリアフリー化や無電柱化などの道路整備が進められています。

○建設予定地の概要

所在地	深川市一条514番5 外	
面積	約 6,000 m ²	
土地の状況	市道及び民有地（地権者2名）	
区域	都市計画区域（区域区分非設定）	
用途地域	商業地域	準工業地域
容積率	400%	200%
建ぺい率	80%	60%
防火地域	準防火地域	法22条区域

(2) 周辺地域への配慮

複合施設は、まちのシンボリックな施設の一つになることが考えられることから、地域材の活用や外観デザインの工夫等により、本市の顔としてふさわしい施設になるよう整備を進めます。

また、周辺的环境や景観と調和をとるとともに、周辺施設との連携を考慮する中で、利用者の利便性確保やにぎわい創出等が図れるよう配慮した計画とします。

(3) 配置方針

複合施設の配置については、JR深川駅とのアクセスを考慮して、下図のとおり可能な限り施設を深川駅に近い位置にするとともに、利用者が分かりやすく利用しやすい配置となるよう計画します。

また、深川駅とアクセスする際に、雨や雪の影響を受けず快適に移動できるよう通路への屋根等の設置を検討します。

さらに、過度な事業費の増大を招かないよう適切な範囲で敷地を取得する中で、複合施設をはじめ公共交通レーンや多目的広場、駐車場などを効率良く配置し、敷地の有効活用を図ることができるよう計画します。

この他、歩行者や路線バス、一般車両等の交錯をできるだけなくすことにより、安全性を重視した動線を計画するほか、周辺の施設や道路からもにぎわいを感じることができる配置を検討します。

<配置イメージ図>



※網掛け部分が整備する箇所となります。

※配置は今後の検討状況等により変更となる可能性があります。

5. 施設の規模

(1) 施設の面積

現在の中央公民館の延床面積は、約2,000㎡(1,971.55㎡)となっています。

複合施設における「生涯学習機能」では、導入機能の具体的内容で整理したとおり、和室や工作室等の複数ある部屋を集約して整備する方向であり、また、類似施設の状況等によっては、多目的ホール等の規模を縮小する可能性があるため、現在の面積より減少することを見込んでいます。

その一方で、複合施設には、まちなかの活性化や市民生活の利便性向上を図るため「交流機能」と「交通機能」を新たに設けることにしており、これら機能の追加により面積の増加が見込まれる部分もあります。

ただし、各部屋の規模については、今後類似施設の状況等を確認する中で精査するほか、施設の平面計画等の詳細については設計作業で検討するため、現時点で延床面積を設定することは難しい状況にあります。

このため、現在の中央公民館の延床面積(2,000㎡)を現時点の基準値として考え、今後進める基本設計において平面計画等の詳細を検討する中で、各部屋に必要な面積を算定し、それらを基準値に追加または削減して、施設の延床面積を決定していきます。

なお、これら面積の検討や施設建設にあたっては、必要な機能やスペースを確保する一方で、健全な財政運営の観点から整備費用の抑制に努める必要があるため、基本方針のとおり、華美にならず経済性と機能性のバランスがとれた施設として整備することを目指します。

そのため、延床面積が基準値より増加する場合は、最大でも3,000㎡以下となるよう検討を進めます。

(2) 階構成

今回の施設整備にあたっては、限られた敷地の中で、複合施設のほかに公共交通レーンや多目的広場、駐車場など様々な機能を整備することから、複合施設の建築面積はある程度抑えて整備する必要があります。

そのため、導入する機能などを考慮した場合、階数は現在の中央公民館と同程度（3階建て）を想定しており、このことを基本に平面計画等を勘案して基本設計で階数を決定していきます。

(3) 敷地の面積

現在の中央公民館の敷地面積は、約1,500㎡（1,484.1㎡）となっています。

現在の中央公民館では、利用状況によって駐車場が不足するところから、複合施設においては駐車場の増設が必要となります。

また、新たな機能として公共交通レーンや多目的広場を配置するほか、通路や緑地等の整備が必要になります。

このため、現在より敷地面積は増加することになると考えており、現時点では下表のとおり「6,000㎡程度」の敷地面積を想定しています。

なお、敷地面積については今後の検討内容によって変更となる場合がありますが、その場合でも、過度な事業費の増大を招かないよう適切な範囲での敷地取得となるよう慎重に検討していきます。

○機能毎の想定面積等

項目	想定面積	備考
現中央公民館敷地面積	1,500㎡程度	
駐車場増設分	300㎡程度	
公共交通レーン	2,200㎡程度	
多目的広場	700㎡程度	
その他	1,300㎡程度	通路、緑地等
合計	6,000㎡程度	

第8章 事業計画

1. 整備手法

公共施設等の設計や建設で行政が主体となる事業手法としては、設計と施工を分離して発注する「設計・施工分離発注方式（従来方式）」をはじめ、設計と施工を一括で発注し全体工期の短縮や発注者のリスク軽減等が期待できる「設計・施工一括発注方式（DB方式）」、設計に建設業者が参画し技術提案を行うことで施工に適した設計となり工事費減が期待できる「技術協力・交渉方式（ECI方式）」があります。

このほか、民間主体の事業手法としては「PFI方式」や「リース方式」が想定されますが、民間事業者の資金調達となるため財政支援が受けられないことや、事業推進に多大な時間を要すること、さらには大手企業が中心となり地元企業の参入が限定される可能性があるなどの課題があります。

複合施設の整備においては、設計段階でも市民等の意見が反映しやすいことや、地元企業が参画しやすく地域経済への波及効果が期待できるなどの理由から、現時点では「設計・施工分離発注方式（従来方式）」が適していると考えていますが、事業費や工期への影響なども考慮しながら、適切な手法で取り組むことができるよう今後検討していきます。

2. 概算事業費及び財源

(1) 概算事業費

複合施設の建設工事費を想定するにあたり、建設単価については、具体的な整備内容等の検討は今後の設計で行うため、規模等が類似する直近の市内工事の建設費を参考にするとともに、近年における全国の建設コストの動向等を踏まえ1㎡当たり70万円程度と想定しました。

なお、施設の延床面積は、第7章でまとめたとおり現時点で設定することは難しいため、建設工事費を含む概算事業費については、現時点の基準値とした現在の中央公民館の延床面積(2,000㎡)と、面積が増加となる場合の最大値(3,000㎡)で、下表のとおり仮に算定したところです。

なお、今後の検討にあたっては、限りある財源を有効に活用するため、ライフサイクルコスト^{※3}の削減につながるよう十分検討し、経済性と機能性のバランスが取れた施設整備に努めていきます。

○概算事業費（仮算定）

項目	概算事業費		備考
	延床面積 2,000㎡	延床面積 3,000㎡	
基本・実施設計等	1.5億円程度	1.7億円程度	複合施設設計、外構設計、各種調査等
建設工事	14.0億円程度	21.0億円程度	
その他費用	5.8億円程度	5.8億円程度	用地買収、補償費、外構工事、中央公民館解体工事、跡地整備、備品等購入等
合計	21.3億円程度	28.5億円程度	

※概算事業費には地方債の借入に伴う利子の償還金は含まれていません。

※概算事業費は仮に算定した額であり今後の検討状況等により変更となる可能性があります。

※3 ライフサイクルコスト 建築物の設計から取り壊しまでの生涯コスト。建設費から光熱水費、保全費、改修費、更新費、解体処分費など建築物にかかる費用をトータルで考えたもの。

(2) 財源

財源については、国の補助事業（都市構造再編集中支援事業）の活用のほか、地方債（過疎対策事業債等）の借り入れなどでの対応を予定しています。仮に算定した概算事業費に対する財源内訳は下表のとおりとなります。

○財源内訳（仮算定）

区 分	金 額		備 考
	延床面積 2,000㎡	延床面積 3,000㎡	
補助金	9.7億円程度	13.2億円程度	都市構造再編集中支援事業を予定
地方債	9.9億円程度	13.5億円程度	過疎対策事業債等を予定
一般財源	1.7億円程度	1.8億円程度	
合 計	21.3億円程度	28.5億円程度	

※財源は今後の検討状況等により変更となる可能性があります。

3. 整備スケジュール

複合施設の整備については、用地取得をはじめ設計や工事等に要する期間を踏まえるとともに、国の補助事業の期間を考慮し、次のスケジュールで進める予定としています。

なお、今後の検討にあたっては、市民や市議会から、より多くの意見をいただく機会を引き続き設けていきます。

○スケジュール（予定）

項目 \ 年度	令和 4年度 (2022)	令和 5年度 (2023)	令和 6年度 (2024)	令和 7年度 (2025)	令和 8年度 (2026)	令和 9年度 (2027)	令和 10年度 (2028)
基本計画等	基本計画	土地調査等					
基本・実施設計			基本・実施設計				
建設工事等				建設・外構工事等			
その他						解体・跡地整備等	

※スケジュールは今後の検討状況等により変更となる可能性があります。